

あすなろ通信 50号

編集 NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ

事務局 〒728-0006 三次市島敷町 1497 番 1

(TEL 0824-55-6301 FAX 0824-55-6302)

HP <http://asunaro-juku.sakura.ne.jp>

発行日 2023年5月24日

今月のことば

他人の意見で自分の
本当の心の声を消して
はならない。

自分の直感を信じる
勇気を持ちなさい。

スティーブ・ジョブズ
(アップル創業者)

年度初めの「挨拶」

あすなろ塾 塾頭 影山克典

【はじめに】

二〇二三年度が始まりました。今年度から新しい塾舎での活動となります。旧塾舎からの移転に関わる全てが片付いたわけではありませんが、とにかくにも「あすなろ塾」設立一三年目の年がスタートしました。

【二〇二三年度は正念場の年】

私が塾頭に就任して八年目の年となりますが、今年度はあらためて正念場の年になると考えています。

私が「あすなろ塾」に来る前の年、三十数人いた生徒を大幅に削減し（結局一〇人になっていました）、講師陣も総入れ替えになっていました。

この時、多くの生徒や保護者から抗議がなされましたが、結局生徒の削減は強行され、「あすなろ塾」は地元地域に大きな禍根を残しました。

その後、生徒数一〇数人の状況が続きますが、二〇二二年度そして今年度と生徒数が大幅に増え、昨年度一八人、今年度一九人となっています（現在塾が設定している定員は二〇人）。

この生徒数の増加の原因は様々考えられますが、一つには、八次地域の生徒が増えたことと、一、二年生の生徒が増えたことにあります。

二〇一五年度末の大幅削減の対象になった生徒の多くは八次地域の生徒だったようです。この時の傷はしばらく克服できずにいましたが、二〇二〇年度頃より八次地域の生徒が増え始め、現在では

89.5% (17/19) となっています。

すなわち、生徒数の増加は八次地域の生徒が増えたことが最大の原因と考えられます。もちろんそのようになった背景は単純にあのときの傷が癒えたというものだけではなく、小学校、中学校の「荒れ」も背景にあると考えています。

そしてこの八次地域のご真ん中に塾舎を移転しました。

したがって八次地域での評価が今後の「あすなろ塾」を決めていくものと考えています。その意味で今年度は正念場の年なのです。

【まだまだ多くの課題が】

私たちはただ人数が増えたからといって単純に喜んではいけません。人数の増加は「あすなろ塾」に対する地域の一定の評価を表しているとは言え、「あすなろ塾」は「経済格差を教育格差にしない」を合い言葉に活動してきました。そのため「すべての生徒の学力保障」「安価な授業料」「減免制度の充実」を運営上の大きな柱にしていますが、減免制度の利用者の減少という現実があります。

近年、民生委員の方々への協力もお願いしていますが、何とかしなければならぬ課題だと考えています。

また、さらなる学力保障の充実という課題等もあります。

【おわりに】

今後とも「経済格差を教育格差にしない」「すべての生徒の学力保障の充実」という看板は降ろすつもりはありません。まだまだ十分な活動ができているとはいえませんが、この八年間で、わずか

ばかりではあっても、成果はあげ続けていると自負しています。

スタッフ一同今年度も精一杯頑張る覚悟です。あらためてこの決意を述べることで、皆様方のご支援・ご協力に感謝しつつ、年度初めのご挨拶とさせていただきます。（四月一日記）

「支援」していただいている企業・団体

- ・ ミヨシ電子株式会社
(三次市東酒屋町)
- ・ (株)三次衛生工業社
(三次市四拾貫町)

「支援」していただいた皆様

- ・ 瀬川順子 (三次市三良坂町)
- ・ 匿名 (三次市三良坂町)
- ・ 旧年度一月から三月にいただいた「厚志」
木暮敬之 (東京都)
- ・ 匿名 (三次市四十貫町)
- ・ 匿名 (三次市十日市東)
- ・ 匿名 (三次市栗屋町)
- ・ 匿名 (三次市南島敷町)



二〇二三年年度総会報告

「NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ」の二〇二三年年度通常総会を、五月十四日（日）十五時三十分から八次コミュニケーションセンターで開催しました。

委任状提出者五名を含めて社員全員の出席で総会が成立し、松本信司理事長の挨拶の後、次の議案の審議を行いました。

- ・二〇二三年度活動報告・事業報告
- ・二〇二三年度会計報告・監査報告
- ・二〇二三年度事業計画案
- ・二〇二三年度予算案
- ・役員改選

すべての議案が賛成多数で承認可決されました。役員改選については、現役員の任期が二〇二四年三月までで、今年は改選の年にならないことを確認しました。継続の役員は次のとおりです。

- | | |
|---------|-------|
| 理事長 | 松本 信司 |
| 副理事長・塾頭 | 影山 克典 |
| 理事 | 瀬川 政博 |
| 理事 | 守本 秀樹 |
| 監事 | 高橋 良治 |
| 会計 | 三橋 豊 |

去る三月二十七日に現在の住所に引っ越し、法務局や広島県への登記、登録も完了し、無事に新年度を迎える事ができたことが併せて報告されました。原状回復も含めて、引っ越しにかかる諸費用は、関係有志からの寄付を財源に無事完了できる見込みであることも報告されました。

今後ともみなさんのご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

合格者の声

昨年度在籍していた三年生全員が希望する高校への進学を果たしました。入試制度が大きく変わり、志願者数の動向や選抜試験への不安がある中で、生徒たちは頑張りました。合格した喜びや高校生になる決意、後輩へのアドバイスなどを書いてくれましたので紹介します。

高校に向けて

A

私は中高一貫校に通っているため、高校受験はありませんでした。しかし、私ともう一人以外の六人は受験があるため、塾では夏休み頃から全員受験に向けた勉強をすることになりました。節目となる受験がないと、気が抜けてしまうことも多いと言われています。

私にとっては、受験勉強を一緒にやったことは三年間の学習を振り返るとても貴重な期間になりました。いざやってみると量が多い、忘れているところも少なくないことなどで、かなり焦ることもありました。塾での課題を終わらせるために他の生徒と一緒に土・日にも塾に行って勉強することもよくありました。このメンバーとは同じ高校にはなりません。四月から高校生として同じスタートラインに立つ仲間として、勉強や部活動、さらには大学に向けた勉強も頑張ろうと思います。高校では学校や生活の面でもかなり忙しくなります。私には現時点で行きたい大学と学部があります。そこに行けるように勉強を頑張ります。そして、この仲間に三年後に大学に合格したと笑顔で言えるようにしたいです。

先生方、約三年間ありがとうございました。

高校に受かりました

B

私は高校に合格した今、思っていることが三つあります。

一つ目は、塾で一年生、二年生、三年生の勉強の復習をしたことは、受験に直接役立ったので、良かったと思います。学力調査のテストでも一年生、二年生、三年生の習ったところが出るので、復習はやった方が良いと思います。

二つ目は、どのように勉強に取り組みかということ。勉強に対して、どんなことを思うのか？「めんどくさいからやりたくない」「そんな風に思っている人が多いと思います。私が、高校入試に備えて勉強したことを通して思ったことは、勉強とは、人のこれからの人生に役に立つものだと思うことです。

高校に行つてからは、勉強を頑張り、部活動にも頑張りたいです。

三つ目は、本番前日はよく寝たほうが良いということです。頭すっきりで本番に臨めば、力が発揮できると思います。

先生方、二年間ありがとうございました。

入試を終えて

C

私が入試を終えて感じていることが二つあります。

一つ目は、入試はとても大変だということ。です。

私は最初に入試という言葉聞いたとき、今までやってきたテストのようなものなのになぜ「入学者選抜」などという大げ

さな言い方をするのだろうかという疑問を持っていました。

しかし入試が近づくにつれ、過去問を解いていると、普通のテストと全く違うものなんだと実感しました。大問は、一から四までしかなくて少ないと感じたのですが、問題一つ一つが難しく、とても驚きました。国語は最後の作文を書き終えるのが時間ぎりぎりだったり、数学は大問一ですら解けないものがあったりして、これは大変だと入試直前になって少し焦りました。

二つ目は、受験に望むという周囲の雰囲気も大事になってくるということです。受験が近づくにつれて、「みんなで乗り越えよう、頑張ろう」という雰囲気が出てくる。とないとでは大きな違いが出てくる」と学校の先生はよく言われました。やりきろうという雰囲気。のクラスでは、自然と勉強するから学力が伸び、その雰囲気がないところでは、学力の伸びが少ないということでした。私はそんなことはあまり関係ないと思っていました。しかし直前になるにつれて、先生の言われていることは本当だったのだなと感じました。私のクラスは周りが勉強を頑張っていたので自然と私もするようになりました。

受験はとても緊張したし、焦りましたが、二つのことを感じられたおかげでなんとか乗り越えることができました。高校では一年から全力で真面目に取り組んでいきたいと思っています。

頑張ったこと

D

私は、第一志望の高校に合格するために、特に三年間の復習を頑張りました。また、入試の制度が変わり、自己表現が加わった

ことで自分のことをしつかり理解して話す事ができるか不安でとても緊張しました。受験当日は全然緊張しないで、いつも通りに話し、合格できてとてもよかったです。

高校生になったら、小学校二年生の頃から続けているバレーボールをし、将来の夢である農業の仕事に就くためにたくさん農業について学び、資格を取りたいと思っています。

バレーボールではレシーバー、セッター、スパイカー、全てのポジションを経験したことがあります。この経験を活かして、どのポジションについても一生懸命頑張りたいです。

農業では、野菜や果物の栽培など実践的な能力を身に着けたり、地域やイベントで販売をして接客力を身に着けていきたいです。自分たちで生産したものを加工してパンやジャムを作るということにも興味があります。たくさん経験を積んで、夢が叶うように頑張りたいです。

最後に後輩の皆さんへのアドバイスです。私は受験というものを初めて経験し、普段から復習をしないといけないと思いました。試験当日は忘れ物をしないように何回も見直すこと、受験当日にしっかりと集中できるように試験前日はよく寝るということが大切です。頑張ってください。

高校に受かりました

E

私はJ高校を受験し、今日無事に合格しました。今とても嬉しい気持ちでいっぱいです。

J高校に行きたいと思い始めたのは昨年の秋頃でした。それまでは親からに松江

高専に行けと言われていました。松江高専はとても良い学校だとは思いましたが、偏差値が高くないと行かない学校だから私には無理だと考えていました。すると、今度は三次高校に行けと言われてました。数学の点数がとても低かった私は、三次高校はもつと無理だと感じていました。しかし、この塾に入ってからどの教科も成績が上がりましたが、特に数学がものすごく伸びました。今まではテスト時間中にできなかった見直しや時間配分もよく考えられるようになりました。二学期の期末の数学で八十点を超えたときはとても嬉しかったです。

秋頃に友達からJ高校を薦められました。実際にその学校に行って見ると、とても楽しそうな雰囲気の中で、勉強もしっかりとできると感じたので私はこの高校が良いと思いました。母に相談してみるとOKしてくれました。しかし、父からはわざわざ遠くまで行って何がしたいんだと言われ、反対されました。なんとか、志望校決定の締め切りまでには父とも話し合っ

て合意できました。

高校入試では何が出題されるか全く分かっていませんでした。すると塾では先生がわざわざプリントを作ってくださいました。しかも基本的な問題だったからやる気が出てきました。受験本番を想定した模試も実施してもらいました。受験本番の流れなどが分かってとても嬉しかったです。

受験が終わってからはずっとそわそわしていて、落ち着きませんでした。しかし今日十時に友達から合格してるよとメールが来ました。そのときはとても嬉しかったです。

塾の先生にはいくら感謝しても感謝し

きれない思いでいっぱいです。

高校では中学校ではしなかったことにたくさん挑戦したいです。また、将来に向けて勉強を頑張っていきたいと思っています。

塾に対する思い

F

三年間塾に通い、私は勉強だけではない様々なことを学ぶ事ができました。

私は、あすなる塾に通い、自力ではできなかった問題などを自分が分かるまででいいねいに教えていただきました。ときには土、日などの休日も私のために勉強を教えてくださいました。

私の成績やテストの点などを気に掛けてくださり、自分自身も頑張らないといけないなと思い、三年間勉強を頑張ることができました。塾の先生方は非常に生徒思いで、熱心に勉強を教えてくださいました。自分が間違ったことをしてしまったときには、指導をしてくださいました。

私が塾に入ってから頃は、どうやって勉強をすれば良いか分かりませんでした。しかし先生方から教えていただいた勉強方法を高校でも活用していきたいと思っています。

最後に、私はあすなる塾に来て良かったと思います。他の塾に行く選択もあったと思います。しかし、あすなる塾の生徒に対する思いや姿勢は他の塾には真似ができない素晴らしいものだと思います。あすなる塾で学ぶ事に自信を持って頑張ってください。

高校前の思い

G

私は、今受験に受かったことが心から嬉しい事です。ですが、宿題との追いつけつことが始まること、中学生活との別れにとっても不安を感じています。九年間供に学校を過ごした友との別れ、そして義務教育の終わりなど不安なこともあります。中学校を振り返ってみると楽しいことがたくさんありました。部活動、体育祭、音楽祭、などの行事がありました。すべて、楽しい思い出です。

三年生になり、本格的に受験に挑み始めてました。本を読み、塾でプリントをする生活が続きましたが、最後までその生活に慣れず、辛かったです。

入試当日は各教科の試験前に休憩がありますが、そのときの静かな空間が私は一番辛かったです。テストが終わった後も静かなのでとても辛いし、怖かったです。自己表現のときには、面接官がとても優しい方で私が発言する度に、頷いてくれる方だったので、プレッシャーも何も感じず、自分の思っていることをしっかりと表現することができました。

最後に、受験に向かうためのアドバイスについて書きます。まずは無理をしないことです。理由は、無理をして夜遅くまで、勉強などをしていたときに体調を崩し、毎日本調が良くない日々が続いていたからです。体調を崩すと、何も出来ないのです。無理をせずに、しっかりと休んでいくことが大事です。楽しい思い出を胸に刻んで自分を励ましなが、受験に挑んでください。

受験を終えて

H

私は、受験を終えて、今はとても嬉しいと感じています。理由は、私は受験直前までそんなに勉強をしていなかったし、自己表現も事前の用意が完璧ではないまま本番を迎えました。いざ本番になったときに、学力検査は、少しは備えて勉強していましたが、自己表現は、自分が思ったように話すことができませんでした。しかし、自分の行きたい高校に合格できてとても嬉しい気持ちです。

高校に上がって頑張りたいことは、提出物です。私は中学生のときに結構提出物を出してなくて、そのために成績をめっちゃ落としてしまったことがあります。それで、高校に上がったから提出物をきちんと出すと決めました。まずは合格発表のときに配布された課題を完璧にして提出したいです。

次に後輩にアドバイスがあります。今からの勉強は自分の苦手な部分を特に力を入れて勉強しておくと思いいます。学力検査でも自分に不安がなければ、自信をもって解答できるので、ぜひおすすめです。また、もし自己表現があったら、今のうちから、少しずつ自分の話す内容を考えておくとい自己表現も話しやすいと思います。備えあれば憂いなし。頑張ってください。



皆

偽善との闘い

影山 克典

〈偽善は悪〉

もう今から四〇年以上前のことだ。この頃は高校の数学の教師をしていたが、何気なく職員室の本棚にあった国語の教科書を見た。その中に「偽善のススメ」(フランス文学者の渡辺一夫著というエッセイが載っているのを見つけた。その時の感想は、内容も読まないまま、「教科書に偽善をすすめるような内容のエッセイを載せていいのか?」という単純なものだった。その頃の私は「人間は多かれ少なかれ偽善を抱えて生きているもの」との問題意識は希薄だったし、「偽善は悪」との浅い考えしかなかった。

〈教える側の偽善〉

よく教える側の人間は、生徒に「分かんかったら分かんと言ってくれ」と言う。これ自体すごくまっとうな教育のすすめ方だし、この姿勢のない者に生徒を教える側学びをプロデュースする側に立つ資格はない。しかし、実はここに教える側の偽善が存在する。

教育現場で教鞭を執った者ならよく分かっているが、目の前の生徒のすべてが教えた内容を全部理解するということはまずない。だからこそ前述の問いかけをするのだが、すべての生徒が疑問や質問

を発すると、それに応えるには膨大な時間がかかる。さらに言えば、どんなに時間をかけてもすべての生徒が満足する対応はできないと言っても過言ではない。そこでどうするか。「分かっている生徒もいる」とは思いながらも、質問が出なかつたらその場をスルーする。後ろめたさとホットする部分も抱えながら…生徒の方も「分からん分からん」と言うことの恥ずかしさと、「まあいいや」というあきらめ等もあつて、スルーする。このようにして教える側は矛盾を抱えた偽善を日々くり返すこととなる。

〈偽善のすすめ?〉

私は今、塾で講師をしている。学校現場にいるときよりは生徒の疑問や質問に対応できていると考えるが、それでも先に述べた偽善は続いている。

最初に紹介した「偽善のススメ」の著者渡辺一夫さんは「化けの皮がはがれないように、最後までうまく偽善者として生き通すように努力していただきたい」と語っている。「偽善の勧め」の著者であるイタリヤの戯作者のパオロ・マツツアリノは「偽善とは、よい人間、立派な人間のふりをし一生涯立派にその仮面をかぶることです」と言う。

彼らの言っていることを私なりに解釈すると「偽善もそれを貫き通せば偽善ではなく本物になる」「その方向での努力こそが大切なのだ」ということか。

〈偽善との闘い〉

私が前述した「教える側の偽善」は完全には克服できない矛盾に基づいたものである。すなわち、生徒も教える側も「分からない、分からせていない」という事実は存在し続けるし、それゆえにこれに対するうしろめたさが払拭されることはない。したがってこのような矛盾に対しては偽善を貫き通そうという姿勢だけでは解決しない。そこには後ろめたさから逃げることなく、工夫・改善を積み重ねる「偽善との闘い」が不可欠だと考える。教える側にいる限りこの長い闘いの継続は放棄してはならないと思う。これが結構大変なのだが…。

